

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。



タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001001	●教養ゼミ ナール(教 育)	和	E	評	大庭 伸 也	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001002	●教養ゼミ ナール(教 育)	和	E	評	赤羽 良 一	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001003	●教養ゼミ ナール(教 育)	和	E	評	隅田 祥 光	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001004	●教養ゼミ ナール(教 育)	和	E	評	牧野 一 穂	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001005	●教養ゼミ ナール(教 育)	和	E	評	山内 正 毅	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001006	●教養ゼミ ナール(教 育)	和	E	評	森野 美 央	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001007	●教養ゼミ ナール(教 育)	和	E	評	大平 晃 久	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001008	●教養ゼミ ナール(教 育)	和	E	評	土肥 大 次郎	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001009	●教養ゼミ ナール(教 育)	和	E	評	鈴木 章 能	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001010	●教養ゼミ ナール(教 育)	和	E	評	三上 次 郎	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001011	●教養ゼミ ナール(教 育)	和	E	評	加納 暁 子	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度	教養教		●教養ゼミ								

シラバス一覧

シラバス (教養教育 科目)	育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001012	ナール(教育)	和	E	評	及川大地	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001013	●教養ゼミ ナール(教育)	和	E	評	高橋 浩二	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001014	●教養ゼミ ナール(教育)	和	E	評	綿巻 徹	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001015	●教養ゼミ ナール(教育)	和	E	評	呉屋 博	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001016	●教養ゼミ ナール(教育)	和	E	評	山岸 賢一郎	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001017	●教養ゼミ ナール(教育)	和	E	評	石川 衣紀	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001018	●教養ゼミ ナール(教育)	和	E	評	赤崎 真弓	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001019	●教養ゼミ ナール(教育)	和	E	評	倉田 伸	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001020	●教養ゼミ ナール(教育)	和	E	評	瀬戸崎 典夫	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001021	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E	評	大倉 真人	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001022	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E	評	小山 久美子	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001023	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E	評	式見 拓仙	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001024	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E		岩田 安晴	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001025	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E		庵谷 治男	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール 科目	20140581001026	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E		後藤 祐一	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～

シラバス一覧

科目)	ル科目		済)								
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001027	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		成田 真 樹子	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001028	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		柴多 一 雄	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001029	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		勝又 壮 太郎	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001030	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		仲井 幹 也	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001031	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		神菌 健 次	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001032	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		山口 純 哉	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001033	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		神菌 健 次	1年,2年,3年,4年	前期	木4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001034	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		大倉 真 人	1年,2年,3年,4年	前期	金4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001035	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		小山 久 美子	1年,2年,3年,4年	前期	金4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001036	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		式見 拓 仙	1年,2年,3年,4年	前期	金4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001037	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		谷口 真 司	1年,2年,3年,4年	前期	金4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001038	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		深浦 厚 之	1年,2年,3年,4年	前期	金4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001039	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		宇都宮 讓	1年,2年,3年,4年	前期	金4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001040	●教養ゼミ ナール(経 済)	和	E		式見 雅 代	1年,2年,3年,4年	前期	金4	～

シラバス一覧

2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001041	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E	松本 睦 樹	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001042	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E	津留崎 和義	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001043	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E	村田 嘉 弘	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001044	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E	土橋 力 也	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001045	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E	丸山 真 純	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001046	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E	張 笑男	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001047	●教養ゼミ ナール(経済)	和	E	林川 美 由樹	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001048	●教養ゼミ ナール(環境 科学部)	和	E	梅津 千 恵子	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001049	●教養ゼミ ナール(環境 科学部)	和	E	福島 邦 夫	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001050	●教養ゼミ ナール(環境 科学部)	和	E	保坂 稔	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001051	●教養ゼミ ナール(環境 科学部)	和	E	吉田 謙 太郎	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001052	●教養ゼミ ナール(環境 科学部)	和	E	黒田 暁	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001053	●教養ゼミ ナール(環境 科学部)	和	E	小林 寛	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001054	●教養ゼミ ナール(環境 科学部)	和	E	堀江 哲 也	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス	教養教育-教養教		●教養ゼミ			井口 恵				

シラバス一覧

(教養教育 科目)	育ゼミナ ル科目	20140581001055	ナール(環 境科学部)	和	E		一朗	1年,2年,3年,4年	前期	金5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001056	●教養ゼミ ナール(環 境科学部)	和	E		岡田二 郎	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001057	●教養ゼミ ナール(環 境科学部)	和	E		西山雅 也	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001058	●教養ゼミ ナール(環 境科学部)	和	E		宮西隆 幸	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001059	●教養ゼミ ナール(環 境科学部)	和	E		武藤鉄 司	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001060	●教養ゼミ ナール(環 境科学部)	和	E		杉山和 一	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001061	●教養ゼミ ナール(環 境科学部)	和	E		仲山英 樹	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001062	●教養ゼミ ナール(工 学部)	和	E	評	桃木悟	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001063	●教養ゼミ ナール(工 学部)	和	E	評	才本明 秀	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001064	●教養ゼミ ナール(工 学部)	和	E	評	奥村哲 也	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001065	●教養ゼミ ナール(工 学部)	和	E	評	小山敦 弘	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001066	●教養ゼミ ナール(工 学部)	和	E	評	下本陽 一	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001067	●教養ゼミ ナール(工 学部)	和	E	評	高瀬徹	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001068	●教養ゼミ ナール(工 学部)	和	E	評	山口朝 彦	1年,2年,3年,4年	前期	金5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ル科目	20140581001069	●教養ゼミ ナール(工 学部)	和	E	評	坂口大 作	1年,2年,3年,4年	前期	金5	～

シラバス一覧

科目)	ル科目		部)								
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001070	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	黒川 不 二雄	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001071	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	田口 光 雄	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001072	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	竹中 隆	1年,2年,3年,4年	前期	金5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001073	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E		小栗 清	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001074	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	喜安 千 弥	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001075	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	末吉 豊	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001076	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	森山 雅 雄	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001077	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	柴田 裕 一郎	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001078	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	藤村 誠	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001079	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	森田 千 尋	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001080	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	蓼原 真 一	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001081	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	勝田 順 一	1年,2年,3年,4年	前期	金5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001082	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	蔣 宇静	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	20140581001083	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	多田 彰 秀	1年,2年,3年,4年	前期	金5	～

シラバス一覧

2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001084	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	奥松 俊 博	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001085	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	香川 明 男	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001086	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	木村 正 成	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001087	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	相樂 隆 正	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001088	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	清水 康 博	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001089	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	田邊 秀 二	1年,2年,3年,4年	前期	金5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001090	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E		近藤 慎 一郎	1年,2年,3年,4年	前期	木5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001091	●教養ゼミ ナール(工学 部)	和	E	評	郷田 秀 一郎	1年,2年,3年,4年	前期	金5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001092	●教養ゼミ ナール(水産 学部)	和	E	評	平坂 勝 也	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001093	●教養ゼミ ナール(水産 学部)	和	E		吉田 朝 美	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001094	●教養ゼミ ナール(水産 学部)	和	E	評	山田 明 徳	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001095	●教養ゼミ ナール(水産 学部)	和	E		北村 等	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001096	●教養ゼミ ナール(水産 学部)	和	E		橘 勝康	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	20140581001097	●教養ゼミ ナール(水産 学部)	和	E		山口 恭 弘	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス	教養教育-教養教		●教養ゼミ				萩原 篤				

シラバス一覧

(教養教育科目)	育ゼミナール科目	20140581001098	ナール(水産学部)	和	E		志	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	20140581001099	●教養ゼミナール(水産学部)	和	E		鈴木利一	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010A0	●教養ゼミナール(水産学部)	和	E		市川寿	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010A1	●教養ゼミナール(水産学部)	和	E		阪倉良孝	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010A2	●教養ゼミナール(水産学部)	和	E	評	武田重信	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010A3	●教養ゼミナール(歯学部)	和	E		宮崎敏博	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010A5	●教養ゼミナール(歯学部)	和	E		岡田幸雄	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010A6	●教養ゼミナール(歯学部)	和	E		綿本隆生	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010A7	●教養ゼミナール(歯学部)	和	E		田中美保子	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010A9	●教養ゼミナール(歯学部)	和	E		井川一成	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010B0	●教養ゼミナール(歯学部)	和	E		尾崎幸生	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010B1	●教養ゼミナール(薬学部)	和	E		黒田直敬	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010B2	●教養ゼミナール(薬学部)				尾野村治	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010B3	●教養ゼミナール(薬学部)				栗山正巳	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度シラバス(教養教育)	教養教育-教養教育ゼミナール	201405810010B4	●教養ゼミナール(薬学)				淵上剛志	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～

シラバス一覧

科目)	ル科目		部)									
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010B5	●教養ゼミ ナール(薬学 部)			評	畑山 範	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010B6	●教養ゼミ ナール(薬学 部)				植田 弘 師	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010B7	●教養ゼミ ナール(薬学 部)	和	E	評	川上 茂	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010B8	●教養ゼミ ナール(薬学 部)			評	高橋 正 克	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010B9	●教養ゼミ ナール(多文 化社会学部)	和	E		連 清吉	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010C0	●教養ゼミ ナール(多文 化社会学部)	和	E		葉柳 和 則	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010C1	●教養ゼミ ナール(多文 化社会学部)	和	E		森川 裕 二	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010C2	●教養ゼミ ナール(多文 化社会学部)	和	E		野上 建 紀	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010C3	●教養ゼミ ナール(多文 化社会学部)	和	E		正本 忍	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010C4	●教養ゼミ ナール(多文 化社会学部)	和	E		池田 幸 恵	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010C5	●教養ゼミ ナール(多文 化社会学部)	和	E		賽漢卓 娜	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010C6	●教養ゼミ ナール(多文 化社会学部)	和	E		滝澤 克 彦	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010C7	●教養ゼミ ナール(多文 化社会学部)	和	E		見原 礼 子	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～	
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育ゼミナ ール科目	201405810010C8	●教養ゼミ ナール(多文 化社会学部)	和	E		小松 悟	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～	

シラバス一覧

2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010C9	●教養ゼミ ナール(医学 部保健学科)	和	E	浦田 秀 子	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010D0	●教養ゼミ ナール(医学 部保健学科)	和	E	大西 真 由美	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010D1	●教養ゼミ ナール(医学 部保健学科)	和	E	本田 純 久	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010D2	●教養ゼミ ナール(医学 部保健学科)	和	E	新川 哲 子	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010D3	●教養ゼミ ナール(医学 部保健学科)	和	E	橋爪 可 織	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010D4	●教養ゼミ ナール(医学 部保健学科)	和	E	山本 直 子	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010D5	●教養ゼミ ナール(医学 部保健学科)	和	E	井口 茂	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010D6	●教養ゼミ ナール(医学 部保健学科)	和	E	中野 治 郎	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010D7	●教養ゼミ ナール(医学 部保健学科)	和	E	東 登志 夫	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010D8	●教養ゼミ ナール(医学 部保健学科)	和	E	村田 潤	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010D9	●教養ゼミ ナール(医学 部医学科)			七島 篤 志	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010F1	●教養ゼミ ナール(医学 部医学科)			松尾 孝 之	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010F2	●教養ゼミ ナール(医学 部医学科)			北條 美 能留	1年,2年,3年,4年	前期	月5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教養教育 ゼミナール科目	201405810010F3	●教養ゼミ ナール(医学 部医学科)	和	E	金子 賢 一	1年,2年,3年,4年	前期	火5	～
2014年度 シラバス	教養教育-教養教		●教養ゼミ							

(教養教育科目)	育ゼミナール科目	201405810010F4	ナール(医学部医学科)				林 秀行	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010F5	●教養ゼミナール(医学部医学科)				築城 英子	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010F6	●教養ゼミナール(医学部医学科)				久保 嘉直	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010F7	●教養ゼミナール(医学部医学科)	和	E	評	松坂 雄亮	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010F9	●教養ゼミナール(医学部医学科)				林 洋子	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010G1	●教養ゼミナール(医学部医学科)				岡田 雅彦	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育ゼミナール科目	201405810010G2	●教養ゼミナール(医学部医学科)				中村 洋一	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5								
開講期間											
必修選択	必	単位数	2.0								
時間割コード	20140581001001	科目番号	05810010								
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)										
編集担当教員	大庭 伸也										
授業担当教員名(科目責任者)	大庭 伸也										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大庭 伸也										
科目分類	教養ゼミナール科目										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目								
教室	[教]21講義室										
対象学生（クラス等）											
担当教員Eメールアドレス											
担当教員研究室											
担当教員TEL											
担当教員オフィスアワー											
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>										
授業到達目標	<p>①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>										
授業方法（学習指導法）	<p>学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>										
	<p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>図書館資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	3	図書館資料収集ガイダンスの受講
回	内容										
1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明										
2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業										
3	図書館資料収集ガイダンスの受講										

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001002	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	赤羽 良一		
授業担当教員名(科目責任者)	赤羽 良一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	赤羽 良一		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]22講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法 (学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5								
開講期間											
必修選択	必	単位数	2.0								
時間割コード	20140581001003	科目番号	05810010								
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)										
編集担当教員	隅田 祥光										
授業担当教員名(科目責任者)	隅田 祥光										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	隅田 祥光										
科目分類	教養ゼミナール科目										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目								
教室	[教]23講義室										
対象学生 (クラス等)											
担当教員Eメールアドレス											
担当教員研究室											
担当教員TEL											
担当教員オフィスアワー											
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>										
授業到達目標	<p>①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>										
授業方法 (学習指導法)	<p>学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>										
	<p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>図書館資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	3	図書館資料収集ガイダンスの受講
回	内容										
1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明										
2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業										
3	図書館資料収集ガイダンスの受講										

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001004	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	牧野 一穂		
授業担当教員名(科目責任者)	牧野 一穂		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	牧野 一穂		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教] 絵画デザイン実習・実験室H26～		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法（学習指導法）	<p>学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>		
	<p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p>		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5								
開講期間											
必修選択	必	単位数	2.0								
時間割コード	20140581001005	科目番号	05810010								
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)										
編集担当教員	山内 正毅										
授業担当教員名(科目責任者)	山内 正毅										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山内 正毅										
科目分類	教養ゼミナール科目										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目								
教室	[教]24講義室										
対象学生 (クラス等)											
担当教員Eメールアドレス											
担当教員研究室											
担当教員TEL											
担当教員オフィスアワー											
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>										
授業到達目標	<p>①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>										
授業方法 (学習指導法)	<p>学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>										
	<p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>図書館資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	3	図書館資料収集ガイダンスの受講
回	内容										
1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明										
2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業										
3	図書館資料収集ガイダンスの受講										

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5								
開講期間											
必修選択	必	単位数	2.0								
時間割コード	20140581001006	科目番号	05810010								
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)										
編集担当教員	森野 美央										
授業担当教員名(科目責任者)	森野 美央										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森野 美央										
科目分類	教養ゼミナール科目										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目								
教室	[教]25講義室										
対象学生（クラス等）											
担当教員Eメールアドレス											
担当教員研究室											
担当教員TEL											
担当教員オフィスアワー											
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>										
授業到達目標	<p>①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>										
授業方法（学習指導法）	<p>学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>										
	<p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>図書館資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	3	図書館資料収集ガイダンスの受講
回	内容										
1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明										
2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業										
3	図書館資料収集ガイダンスの受講										

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001007	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	大平 晃久		
授業担当教員名(科目責任者)	大平 晃久		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大平 晃久		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]12講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001008	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	土肥 大次郎		
授業担当教員名(科目責任者)	土肥 大次郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	土肥 大次郎		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法 (学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001009	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	鈴木 章能		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 章能		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 章能		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]13講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法 (学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5								
開講期間											
必修選択	必	単位数	2.0								
時間割コード	20140581001010	科目番号	05810010								
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)										
編集担当教員	三上 次郎										
授業担当教員名(科目責任者)	三上 次郎										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	三上 次郎										
科目分類	教養ゼミナール科目										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目								
教室	[教]23講義室										
対象学生（クラス等）											
担当教員Eメールアドレス											
担当教員研究室											
担当教員TEL											
担当教員オフィスアワー											
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>										
授業到達目標	<p>①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>										
授業方法（学習指導法）	<p>学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>										
	<p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>図書館資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	3	図書館資料収集ガイダンスの受講
回	内容										
1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明										
2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業										
3	図書館資料収集ガイダンスの受講										

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001011	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	加納 暁子		
授業担当教員名(科目責任者)	加納 暁子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	加納 暁子		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]24講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5								
開講期間											
必修選択	必	単位数	2.0								
時間割コード	20140581001012	科目番号	05810010								
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)										
編集担当教員	及川 大地										
授業担当教員名(科目責任者)	及川 大地										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	及川 大地										
科目分類	教養ゼミナール科目										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目								
教室	[全] 学部問い合わせのこと										
対象学生 (クラス等)											
担当教員Eメールアドレス											
担当教員研究室											
担当教員TEL											
担当教員オフィスアワー											
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>										
授業到達目標	<p>①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>										
授業方法 (学習指導法)	<p>学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>										
	<p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>図書館資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	3	図書館資料収集ガイダンスの受講
回	内容										
1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明										
2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業										
3	図書館資料収集ガイダンスの受講										

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001013	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	高橋 浩二		
授業担当教員名(科目責任者)	高橋 浩二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高橋 浩二		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]31講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001014	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	綿巻 徹		
授業担当教員名(科目責任者)	綿巻 徹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	綿巻 徹		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]32講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001015	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	呉屋 博		
授業担当教員名(科目責任者)	呉屋 博		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	呉屋 博		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]41講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001016	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	山岸 賢一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	山岸 賢一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山岸 賢一郎		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法 (学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5								
開講期間											
必修選択	必	単位数	2.0								
時間割コード	20140581001017	科目番号	05810010								
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)										
編集担当教員	石川 衣紀										
授業担当教員名(科目責任者)	石川 衣紀										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	石川 衣紀										
科目分類	教養ゼミナール科目										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目								
教室	[全] 学部問い合わせのこと										
対象学生 (クラス等)											
担当教員Eメールアドレス											
担当教員研究室											
担当教員TEL											
担当教員オフィスアワー											
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>										
授業到達目標	<p>①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>										
授業方法 (学習指導法)	<p>学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>										
	<p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>図書館資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	3	図書館資料収集ガイダンスの受講
回	内容										
1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明										
2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業										
3	図書館資料収集ガイダンスの受講										

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001018	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	赤崎 眞弓		
授業担当教員名(科目責任者)	赤崎 眞弓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	赤崎 眞弓		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]42講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法 (学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001019	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	倉田 伸		
授業担当教員名(科目責任者)	倉田 伸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	倉田 伸		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]第2PC室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法 (学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001020	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(教育)		
編集担当教員	瀬戸崎 典夫		
授業担当教員名(科目責任者)	瀬戸崎 典夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	瀬戸崎 典夫		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法 (学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定, グループ分け, グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション, グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション	
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション	
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成開始・レポートの作成開始	
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成	
	9	中間発表 質疑応答	
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の作成・レポートの作成 (中間発表による修正)	
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出	
	12	プレゼンテーション準備 (発表練習) と質疑応答, グループディスカッション	
	13	合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出	
	14	最終レポートの修正	
	15	最終レポートの提出	
	16		
	キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ, 必要があればその時, 指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点 (個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)	
受講要件 (履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については, 教養教育学生便覧を参照すること。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001021	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	大倉 真人		
授業担当教員名(科目責任者)	大倉 真人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大倉 真人		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001022	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	小山 久美子		
授業担当教員名(科目責任者)	小山 久美子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小山 久美子		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001023	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	式見 拓仙		
授業担当教員名(科目責任者)	式見 拓仙		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	式見 拓仙		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001024	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	岩田 安晴		
授業担当教員名(科目責任者)	岩田 安晴		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岩田 安晴		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	yiwata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木曜日12:00-12:45 (事前にメールで予約確認のこと)		
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	学習意欲を持って楽しんで取り組んでください。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001025	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	庵谷 治男		
授業担当教員名(科目責任者)	庵谷 治男		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	庵谷 治男		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001026	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	後藤 祐一		
授業担当教員名(科目責任者)	後藤 祐一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	後藤 祐一		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001027	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	成田 真樹子		
授業担当教員名(科目責任者)	成田 真樹子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	成田 真樹子		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001028	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	柴多 一雄		
授業担当教員名(科目責任者)	柴多 一雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柴多 一雄		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001029	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	勝又 壮太郎		
授業担当教員名(科目責任者)	勝又 壮太郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝又 壮太郎		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001030	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	仲井 幹也		
授業担当教員名(科目責任者)	仲井 幹也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	仲井 幹也		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001031	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	小野 哲		
授業担当教員名(科目責任者)	神菌 健次		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	神菌 健次		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001032	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	山口 純哉		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 純哉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 純哉		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001033	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	神菌 健次		
授業担当教員名(科目責任者)	神菌 健次		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	神菌 健次		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001034	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	大倉 真人		
授業担当教員名(科目責任者)	大倉 真人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大倉 真人		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001035	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	小山 久美子		
授業担当教員名(科目責任者)	小山 久美子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小山 久美子		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001036	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	式見 拓仙		
授業担当教員名(科目責任者)	式見 拓仙		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	式見 拓仙		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001037	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	谷口 眞司		
授業担当教員名(科目責任者)	谷口 眞司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	谷口 眞司		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001038	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	深浦 厚之		
授業担当教員名(科目責任者)	深浦 厚之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	深浦 厚之		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001039	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	宇都宮 謙		
授業担当教員名(科目責任者)	宇都宮 謙		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宇都宮 謙		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001040	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	式見 雅代		
授業担当教員名(科目責任者)	式見 雅代		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	式見 雅代		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001041	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	松本 睦樹		
授業担当教員名(科目責任者)	松本 睦樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松本 睦樹		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001042	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	津留崎 和義		
授業担当教員名(科目責任者)	津留崎 和義		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	津留崎 和義		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001043	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	村田 嘉弘		
授業担当教員名(科目責任者)	村田 嘉弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村田 嘉弘		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001044	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	土橋 力也		
授業担当教員名(科目責任者)	土橋 力也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	土橋 力也		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週1コマ、15週で2単位とする。 ・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001045	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	丸山 真純		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 真純		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 真純		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001046	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	張 笑男		
授業担当教員名(科目責任者)	張 笑男		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	張 笑男		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001047	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(経済)		
編集担当教員	林川 美由樹		
授業担当教員名(科目責任者)	林川 美由樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林川 美由樹		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業方法 (学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。 		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに 		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001048	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	梅津 千恵子												
授業担当教員名(科目責任者)	梅津 千恵子												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	梅津 千恵子												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] フィールドリサーチ準備室												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
受講要件（履修条件）			
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001049	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	福島 邦夫												
授業担当教員名(科目責任者)	福島 邦夫												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福島 邦夫												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] フィールドリサーチ準備室												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
受講要件（履修条件）			
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001050	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	保坂 稔												
授業担当教員名(科目責任者)	保坂 稔												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	保坂 稔												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] フィールドリサーチ解析室												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
受講要件（履修条件）			
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001051	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	吉田 謙太郎												
授業担当教員名(科目責任者)	吉田 謙太郎												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉田 謙太郎												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] 417-1												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
受講要件（履修条件）			
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001052	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	黒田 暁												
授業担当教員名(科目責任者)	黒田 暁												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	黒田 暁												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] フィールドリサーチ解析室												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001053	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	小林 寛												
授業担当教員名(科目責任者)	小林 寛												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小林 寛												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] 437												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001054	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	堀江 哲也												
授業担当教員名(科目責任者)	堀江 哲也												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	堀江 哲也												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] 411-2												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001055	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	井口 恵一朗												
授業担当教員名(科目責任者)	井口 恵一朗												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井口 恵一朗												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] 3 4 1												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001056	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	岡田 二郎												
授業担当教員名(科目責任者)	岡田 二郎												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡田 二郎												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] 342												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001057	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	西山 雅也												
授業担当教員名(科目責任者)	西山 雅也												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西山 雅也												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[教養A棟]A-14												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001058	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	宮西 隆幸												
授業担当教員名(科目責任者)	宮西 隆幸												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宮西 隆幸												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] 242												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001059	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	武藤 鉄司												
授業担当教員名(科目責任者)	武藤 鉄司												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	武藤 鉄司												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] 229-3												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
受講要件（履修条件）			
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001060	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	杉山 和一												
授業担当教員名(科目責任者)	杉山 和一												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	杉山 和一												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] 3 4 2												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5										
開講期間													
必修選択	必	単位数	2.0										
時間割コード	20140581001061	科目番号	05810010										
授業科目名	●教養ゼミナール(環境科学部)												
編集担当教員	仲山 英樹												
授業担当教員名(科目責任者)	仲山 英樹												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	仲山 英樹												
科目分類	教養ゼミナール科目												
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目										
教室	[環] 341												
対象学生 (クラス等)													
担当教員Eメールアドレス													
担当教員研究室													
担当教員TEL													
担当教員オフィスアワー													
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>												
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>												
授業方法 (学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナールを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>												
	<p>大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門教育科目の履修ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境科学へのいざない (講義)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料収集ガイダンスの受講</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	2	専門教育科目の履修ガイダンス	3	環境科学へのいざない (講義)	4	資料収集ガイダンスの受講
回	内容												
1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介												
2	専門教育科目の履修ガイダンス												
3	環境科学へのいざない (講義)												
4	資料収集ガイダンスの受講												

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義	
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション	
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告	
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討	
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告	
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成	
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出	
	15	総合討論会（講評、総括）	
	16		
	キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
	教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
	成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001062	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	桃木 悟		
授業担当教員名(科目責任者)	桃木 悟		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	桃木 悟		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 2		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001063	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	才本 明秀		
授業担当教員名(科目責任者)	才本 明秀		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	才本 明秀		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 1		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001064	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	奥村 哲也		
授業担当教員名(科目責任者)	奥村 哲也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	奥村 哲也		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 6		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001065	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	小山 敦弘		
授業担当教員名(科目責任者)	小山 敦弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小山 敦弘		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 4		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001066	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	下本 陽一		
授業担当教員名(科目責任者)	下本 陽一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	下本 陽一		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 3		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分+質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分+質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001067	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	高瀬 徹		
授業担当教員名(科目責任者)	高瀬 徹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高瀬 徹		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 5		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001068	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	山口 朝彦		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 朝彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 朝彦		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 7		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001069	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	坂口 大作		
授業担当教員名(科目責任者)	坂口 大作		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	坂口 大作		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 5		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001070	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	黒川 不二雄		
授業担当教員名(科目責任者)	黒川 不二雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	黒川 不二雄		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 23		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001071	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	田口 光雄		
授業担当教員名(科目責任者)	田口 光雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田口 光雄		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001072	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	竹中 隆		
授業担当教員名(科目責任者)	竹中 隆		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	竹中 隆		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 2 3		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001073	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	小栗 清		
授業担当教員名(科目責任者)	小栗 清		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小栗 清		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 2 2		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>大学入学以前の教師主導型を主とする学習からの転換を図り、大学における自主的な学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標としている。そのために、知的活動に自主的に取り組む習慣を身につけ、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を習得し、口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを行うことにより自己表現能力を高めるとともに、レポート作成による論理的な思考の方法を身につけることを具体的目標としている。また、大学での学習の入り口として、教員および学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を学ぶ。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 知識・理解：多文化・異文化に関する知識、人類の文化、社会と自然に関する知識を獲得する。 2 汎用的技能：コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力を涵養する。 3 態度・指向性：自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力を育てる。 4 統合的な学習経験と創造的思考力：これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用して問題解決する能力を涵養する。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1 工学部の学生を工学部教員が指導する。 2 従来の教養セミナーの教育方針を受け継ぎ、30クラスを開設して少人数教育を実施する。 3 授業内容（シラバス）と成績評価方法・基準を統一するとともに、一方では、ある程度の教員の裁量も成績評価に取り入れられるように工夫する。 4 同一コース（教育プログラム）の学生のためのクラスができないよう工夫をする。 5 個人発表とグループ発表の機会を設ける。 		
	回	内容	
	1	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介カードへの記入、自己	

授業内容	1	紹介
	2	第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス、個人発表テーマIの提示
	3	第3回 個人発表I（発表5分+質問1分）、個人発表テーマIIの提示
	4	第4回 個人発表II（発表5分+質問1分）、個人発表テーマIIIの提示
	5	第5回 話し方講座（効果的なプレゼンテーションを行うための学習）
	6	第6回 個人発表III（発表5分+質問1分）
	7	第7回 発想法、グループディスカッションの方法に関する講義と演習
	8	第8回 グループ分け（4名一組）、グループ研究テーマの説明と設定
	9	第9回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集
	10	第10回 収集した資料等を基にしたグループディスカッション
	11	第11回 プレゼンテーション資料の作成
	12	第12回 プレゼンテーションの練習
	13	第13回 プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	第14回 プレゼンテーション大会決勝（選抜されたチーム同士による決勝）
	15	第15回 レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	初年次少人数セミナー、転換教育、初年次教育、自己発言能力、コミュニケーション力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に応じて、必要があれば提示する。	
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性、予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか、コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか、話し方は適切か、図表が適切に配置されているか、図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか、文脈は正しいかなど） 	
受講要件（履修条件）	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的な参加20点、プレゼンテーション20点、レポート60点	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001074	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	喜安 千弥		
授業担当教員名(科目責任者)	喜安 千弥		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	喜安 千弥		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 24		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分+質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分+質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001075	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	末吉 豊		
授業担当教員名(科目責任者)	末吉 豊		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	末吉 豊		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研108		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001076	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	森山 雅雄		
授業担当教員名(科目責任者)	森山 雅雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森山 雅雄		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 12		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001077	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	柴田 裕一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	柴田 裕一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柴田 裕一郎		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 情報演習室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001078	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	藤村 誠		
授業担当教員名(科目責任者)	藤村 誠		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤村 誠		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 21		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001079	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	森田 千尋		
授業担当教員名(科目責任者)	森田 千尋		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森田 千尋		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 物理実験室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001080	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	蓼原 真一		
授業担当教員名(科目責任者)	蓼原 真一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	蓼原 真一		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 8		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分+質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分+質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001081	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	勝田 順一		
授業担当教員名(科目責任者)	勝田 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝田 順一		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 8		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001082	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	蔣 宇静		
授業担当教員名(科目責任者)	蔣 宇静		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	蔣 宇静		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] セミナー室2		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001089	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	田邊 秀二		
授業担当教員名(科目責任者)	田邊 秀二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田邊 秀二		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研208		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分+質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分+質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001084	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	奥松 俊博		
授業担当教員名(科目責任者)	奥松 俊博		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	奥松 俊博		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] セミナー室1		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001085	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	香川 明男		
授業担当教員名(科目責任者)	香川 明男		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	香川 明男		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研207		
対象学生（クラス等）	1年生		
担当教員Eメールアドレス	akagawa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	総合教育研究棟6階西		
担当教員TEL	095-819-2640		
担当教員オフィスアワー	月曜日6校時		
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001086	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	木村 正成		
授業担当教員名(科目責任者)	木村 正成		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	木村 正成		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 化学実験室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分+質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分+質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 セミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001087	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	相楽 隆正		
授業担当教員名(科目責任者)	相楽 隆正		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	相楽 隆正		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研大講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分+質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分+質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001088	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	清水 康博		
授業担当教員名(科目責任者)	清水 康博		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	清水 康博		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研多目的ホール		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分+質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分+質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001089	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	田邊 秀二		
授業担当教員名(科目責任者)	田邊 秀二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田邊 秀二		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研208		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001090	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	近藤 慎一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	近藤 慎一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	近藤 慎一郎		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研208		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分+質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分+質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001091	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(工学部)		
編集担当教員	郷田 秀一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	郷田 秀一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	郷田 秀一郎		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 4		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。 		
授業方法（学習指導法）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。 		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分+質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分+質問1分）、発表指導	

授業内容	5	個人発表Ⅲ（発表5分+質問1分），発表指導，グループ分け（3～7名一組）	
	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション	
	9	プレゼンテーションに関する指導	
	10	プレゼンテーションに関する指導	
	11	プレゼンテーション資料の作成	
	12	プレゼンテーションの練習	
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）	
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）	
	15	レポート作成に関する指導	
	16		
	キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
	教科書・教材・参考書	適宜配布	
	成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど） 	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001092	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(水産学部)		
編集担当教員	平坂 勝也		
授業担当教員名(科目責任者)	平坂 勝也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	平坂 勝也		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	大講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001093	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(水産学部)		
編集担当教員	吉田 朝美		
授業担当教員名(科目責任者)	吉田 朝美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉田 朝美		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-15		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法 (学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001094	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(水産学部)		
編集担当教員	山田 明德		
授業担当教員名(科目責任者)	山田 明德		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山田 明德		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[水] 1		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法 (学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001095	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(水産学部)		
編集担当教員	北村 等		
授業担当教員名(科目責任者)	北村 等		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	北村 等		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法 (学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001096	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(水産学部)		
編集担当教員	橘 勝康		
授業担当教員名(科目責任者)	橘 勝康		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	橘 勝康		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法 (学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001097	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(水産学部)		
編集担当教員	山口 恭弘		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 恭弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 恭弘		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[水] 1		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法 (学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001098	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(水産学部)		
編集担当教員	萩原 篤志		
授業担当教員名(科目責任者)	萩原 篤志		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	萩原 篤志		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[水] 2		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法 (学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140581001099	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(水産学部)		
編集担当教員	鈴木 利一		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 利一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 利一		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[水] 3		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法 (学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010A0	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(水産学部)		
編集担当教員	市川 寿		
授業担当教員名(科目責任者)	市川 寿		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	市川 寿		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法 (学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010A1	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(水産学部)		
編集担当教員	阪倉 良孝		
授業担当教員名(科目責任者)	阪倉 良孝		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	阪倉 良孝		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[水]ゼミ室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010A2	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(水産学部)		
編集担当教員	武田 重信		
授業担当教員名(科目責任者)	武田 重信		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	武田 重信		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[水]ゼミ室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5																																								
開講期間																																											
必修選択	必	単位数	2.0																																								
時間割コード	201405810010A3	科目番号	05810010																																								
授業科目名	●教養ゼミナール(歯学部)																																										
編集担当教員	宮崎 敏博																																										
授業担当教員名(科目責任者)	宮崎 敏博																																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宮崎 敏博, 森石 武史																																										
科目分類	教養ゼミナール科目																																										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																																								
教室	[全] 学部間い合わせのこと																																										
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者																																										
担当教員Eメールアドレス																																											
担当教員研究室																																											
担当教員TEL																																											
担当教員オフィスアワー																																											
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。																																										
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 																																										
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。																																										
授業内容	<p>15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に、グループワーク（立案・情報収集等）、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、発表会等を行う。ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。第1回目には自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明を行う。また、第15回目には各曜日のすべての班合同で総括発表会を実施する。各曜日の授業日程は次のとおり。</p> <p>○月曜日</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月 7日</td> <td>第2回</td> <td>4月14日</td> <td>第3回</td> <td>4月21日</td> <td>第4回</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>4月28日</td> <td>第5回</td> <td>5月12日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5月19日</td> <td>第7回</td> <td>5月26日</td> <td>第8回</td> <td>6月 2日</td> <td>第9回</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月 9日</td> <td>第10回</td> <td>6月16日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>6月23日</td> <td>第12回</td> <td>6月30日</td> <td>第13回</td> <td>7月 7日</td> <td>第14回</td> <td></td> </tr> </table>			第1回	4月 7日	第2回	4月14日	第3回	4月21日	第4回			4月28日	第5回	5月12日					第6回	5月19日	第7回	5月26日	第8回	6月 2日	第9回			6月 9日	第10回	6月16日					第11回	6月23日	第12回	6月30日	第13回	7月 7日	第14回	
第1回	4月 7日	第2回	4月14日	第3回	4月21日	第4回																																					
	4月28日	第5回	5月12日																																								
第6回	5月19日	第7回	5月26日	第8回	6月 2日	第9回																																					
	6月 9日	第10回	6月16日																																								
第11回	6月23日	第12回	6月30日	第13回	7月 7日	第14回																																					

	7月14日 第15回 7月28日 ○火曜日 第1回 4月8日 第2回 4月15日 第3回 4月22日 第4回 5月13日 第5回 5月20日 第6回 5月27日 第7回 6月3日 第8回 6月10日 第9回 6月17日 第10回 6月24日 第11回 7月1日 第12回 7月8日 第13回 7月15日 第14回 7月22日 第15回 7月29日
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5																																								
開講期間																																											
必修選択	必	単位数	2.0																																								
時間割コード	201405810010A5	科目番号	05810010																																								
授業科目名	●教養ゼミナール(歯学部)																																										
編集担当教員	岡田 幸雄																																										
授業担当教員名(科目責任者)	岡田 幸雄																																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡田 幸雄																																										
科目分類	教養ゼミナール科目																																										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																																								
教室	[全] 学部間い合わせのこと																																										
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者																																										
担当教員Eメールアドレス																																											
担当教員研究室																																											
担当教員TEL																																											
担当教員オフィスアワー																																											
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。																																										
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 																																										
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。																																										
授業内容	<p>15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に、グループワーク（立案・情報収集等）、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、発表会等を行う。ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。第1回目には自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明を行う。また、第15回目には各曜日のすべての班合同で総括発表会を実施する。各曜日の授業日程は次のとおり。</p> <p>○月曜日</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月 7日</td> <td>第2回</td> <td>4月14日</td> <td>第3回</td> <td>4月21日</td> <td>第4回</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>4月28日</td> <td>第5回</td> <td>5月12日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5月19日</td> <td>第7回</td> <td>5月26日</td> <td>第8回</td> <td>6月 2日</td> <td>第9回</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月 9日</td> <td>第10回</td> <td>6月16日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>6月23日</td> <td>第12回</td> <td>6月30日</td> <td>第13回</td> <td>7月 7日</td> <td>第14回</td> <td></td> </tr> </table>			第1回	4月 7日	第2回	4月14日	第3回	4月21日	第4回			4月28日	第5回	5月12日					第6回	5月19日	第7回	5月26日	第8回	6月 2日	第9回			6月 9日	第10回	6月16日					第11回	6月23日	第12回	6月30日	第13回	7月 7日	第14回	
第1回	4月 7日	第2回	4月14日	第3回	4月21日	第4回																																					
	4月28日	第5回	5月12日																																								
第6回	5月19日	第7回	5月26日	第8回	6月 2日	第9回																																					
	6月 9日	第10回	6月16日																																								
第11回	6月23日	第12回	6月30日	第13回	7月 7日	第14回																																					

	7月14日 第15回 7月28日 ○火曜日 第1回 4月 8日 第2回 4月15日 第3回 4月22日 第4回 5月13日 第5回 5月20日 第6回 5月27日 第7回 6月 3日 第8回 6月10日 第9回 6月17日 第10回 6月24日 第11回 7月 1日 第12回 7月 8日 第13回 7月15日 第14回 7月22日 第15回 7月29日
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5																																								
開講期間																																											
必修選択	必	単位数	2.0																																								
時間割コード	201405810010A6	科目番号	05810010																																								
授業科目名	●教養ゼミナール(歯学部)																																										
編集担当教員	綿本 隆生																																										
授業担当教員名(科目責任者)	綿本 隆生																																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	綿本 隆生																																										
科目分類	教養ゼミナール科目																																										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																																								
教室	[全] 学部間い合わせのこと																																										
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者																																										
担当教員Eメールアドレス																																											
担当教員研究室																																											
担当教員TEL																																											
担当教員オフィスアワー																																											
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。																																										
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 																																										
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。																																										
授業内容	<p>15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に、グループワーク（立案・情報収集等）、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、発表会等を行う。ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。第1回目には自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明を行う。また、第15回目には各曜日のすべての班合同で総括発表会を実施する。各曜日の授業日程は次のとおり。</p> <p>○月曜日</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月 7日</td> <td>第2回</td> <td>4月14日</td> <td>第3回</td> <td>4月21日</td> <td>第4回</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>4月28日</td> <td>第5回</td> <td>5月12日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5月19日</td> <td>第7回</td> <td>5月26日</td> <td>第8回</td> <td>6月 2日</td> <td>第9回</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月 9日</td> <td>第10回</td> <td>6月16日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>6月23日</td> <td>第12回</td> <td>6月30日</td> <td>第13回</td> <td>7月 7日</td> <td>第14回</td> <td></td> </tr> </table>			第1回	4月 7日	第2回	4月14日	第3回	4月21日	第4回			4月28日	第5回	5月12日					第6回	5月19日	第7回	5月26日	第8回	6月 2日	第9回			6月 9日	第10回	6月16日					第11回	6月23日	第12回	6月30日	第13回	7月 7日	第14回	
第1回	4月 7日	第2回	4月14日	第3回	4月21日	第4回																																					
	4月28日	第5回	5月12日																																								
第6回	5月19日	第7回	5月26日	第8回	6月 2日	第9回																																					
	6月 9日	第10回	6月16日																																								
第11回	6月23日	第12回	6月30日	第13回	7月 7日	第14回																																					

	7月14日 第15回 7月28日 ○火曜日 第1回 4月8日 第2回 4月15日 第3回 4月22日 第4回 5月13日 第5回 5月20日 第6回 5月27日 第7回 6月3日 第8回 6月10日 第9回 6月17日 第10回 6月24日 第11回 7月1日 第12回 7月8日 第13回 7月15日 第14回 7月22日 第15回 7月29日
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5																																								
開講期間																																											
必修選択	必	単位数	2.0																																								
時間割コード	201405810010A7	科目番号	05810010																																								
授業科目名	●教養ゼミナール(歯学部)																																										
編集担当教員	田中 美保子																																										
授業担当教員名(科目責任者)	田中 美保子																																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田中 美保子,吉田 和弘																																										
科目分類	教養ゼミナール科目																																										
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																								
教室	[全] 学部間い合わせのこと																																										
対象学生(クラス等)	医・保・歯・薬1年,単位未修得者																																										
担当教員Eメールアドレス																																											
担当教員研究室																																											
担当教員TEL																																											
担当教員オフィスアワー																																											
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。																																										
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 																																										
授業方法(学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。																																										
授業内容	<p>15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に、グループワーク(立案・情報収集等)、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、発表会等を行う。ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。第1回目には自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明を行う。また、第15回目には各曜日のすべての班合同で総括発表会を実施する。各曜日の授業日程は次のとおり。</p> <p>○月曜日</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月7日</td> <td>第2回</td> <td>4月14日</td> <td>第3回</td> <td>4月21日</td> <td>第4回</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>4月28日</td> <td>第5回</td> <td>5月12日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5月19日</td> <td>第7回</td> <td>5月26日</td> <td>第8回</td> <td>6月2日</td> <td>第9回</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月9日</td> <td>第10回</td> <td>6月16日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>6月23日</td> <td>第12回</td> <td>6月30日</td> <td>第13回</td> <td>7月7日</td> <td>第14回</td> <td></td> </tr> </table>			第1回	4月7日	第2回	4月14日	第3回	4月21日	第4回			4月28日	第5回	5月12日					第6回	5月19日	第7回	5月26日	第8回	6月2日	第9回			6月9日	第10回	6月16日					第11回	6月23日	第12回	6月30日	第13回	7月7日	第14回	
第1回	4月7日	第2回	4月14日	第3回	4月21日	第4回																																					
	4月28日	第5回	5月12日																																								
第6回	5月19日	第7回	5月26日	第8回	6月2日	第9回																																					
	6月9日	第10回	6月16日																																								
第11回	6月23日	第12回	6月30日	第13回	7月7日	第14回																																					

	7月14日 第15回 7月28日 ○火曜日 第1回 4月8日 第2回 4月15日 第3回 4月22日 第4回 5月13日 第5回 5月20日 第6回 5月27日 第7回 6月3日 第8回 6月10日 第9回 6月17日 第10回 6月24日 第11回 7月1日 第12回 7月8日 第13回 7月15日 第14回 7月22日 第15回 7月29日
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5																																								
開講期間																																											
必修選択	必	単位数	2.0																																								
時間割コード	201405810010A9	科目番号	05810010																																								
授業科目名	●教養ゼミナール(歯学部)																																										
編集担当教員	井川 一成																																										
授業担当教員名(科目責任者)	井川 一成																																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井川 一成																																										
科目分類	教養ゼミナール科目																																										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																																								
教室	[全] 学部間い合わせのこと																																										
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者																																										
担当教員Eメールアドレス																																											
担当教員研究室																																											
担当教員TEL																																											
担当教員オフィスアワー																																											
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。																																										
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 																																										
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。																																										
授業内容	<p>15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に、グループワーク（立案・情報収集等）、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、発表会等を行う。ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。第1回目には自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明を行う。また、第15回目には各曜日のすべての班合同で総括発表会を実施する。各曜日の授業日程は次のとおり。</p> <p>○月曜日</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月 7日</td> <td>第2回</td> <td>4月14日</td> <td>第3回</td> <td>4月21日</td> <td>第4回</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>4月28日</td> <td>第5回</td> <td>5月12日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5月19日</td> <td>第7回</td> <td>5月26日</td> <td>第8回</td> <td>6月 2日</td> <td>第9回</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月 9日</td> <td>第10回</td> <td>6月16日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>6月23日</td> <td>第12回</td> <td>6月30日</td> <td>第13回</td> <td>7月 7日</td> <td>第14回</td> <td></td> </tr> </table>			第1回	4月 7日	第2回	4月14日	第3回	4月21日	第4回			4月28日	第5回	5月12日					第6回	5月19日	第7回	5月26日	第8回	6月 2日	第9回			6月 9日	第10回	6月16日					第11回	6月23日	第12回	6月30日	第13回	7月 7日	第14回	
第1回	4月 7日	第2回	4月14日	第3回	4月21日	第4回																																					
	4月28日	第5回	5月12日																																								
第6回	5月19日	第7回	5月26日	第8回	6月 2日	第9回																																					
	6月 9日	第10回	6月16日																																								
第11回	6月23日	第12回	6月30日	第13回	7月 7日	第14回																																					

	7月14日 第15回 7月28日 ○火曜日 第1回 4月8日 第2回 4月15日 第3回 4月22日 第4回 5月13日 第5回 5月20日 第6回 5月27日 第7回 6月3日 第8回 6月10日 第9回 6月17日 第10回 6月24日 第11回 7月1日 第12回 7月8日 第13回 7月15日 第14回 7月22日 第15回 7月29日
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5																																								
開講期間																																											
必修選択	必	単位数	2.0																																								
時間割コード	201405810010B0	科目番号	05810010																																								
授業科目名	●教養ゼミナール(歯学部)																																										
編集担当教員	尾崎 幸生																																										
授業担当教員名(科目責任者)	尾崎 幸生																																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	尾崎 幸生																																										
科目分類	教養ゼミナール科目																																										
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																																								
教室	[全] 学部間い合わせのこと																																										
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者																																										
担当教員Eメールアドレス																																											
担当教員研究室																																											
担当教員TEL																																											
担当教員オフィスアワー																																											
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。																																										
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 																																										
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。																																										
授業内容	<p>15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に、グループワーク（立案・情報収集等）、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、発表会等を行う。ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。第1回目には自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明を行う。また、第15回目には各曜日のすべての班合同で総括発表会を実施する。各曜日の授業日程は次のとおり。</p> <p>○月曜日</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月 7日</td> <td>第2回</td> <td>4月14日</td> <td>第3回</td> <td>4月21日</td> <td>第4回</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>4月28日</td> <td>第5回</td> <td>5月12日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5月19日</td> <td>第7回</td> <td>5月26日</td> <td>第8回</td> <td>6月 2日</td> <td>第9回</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月 9日</td> <td>第10回</td> <td>6月16日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>6月23日</td> <td>第12回</td> <td>6月30日</td> <td>第13回</td> <td>7月 7日</td> <td>第14回</td> <td></td> </tr> </table>			第1回	4月 7日	第2回	4月14日	第3回	4月21日	第4回			4月28日	第5回	5月12日					第6回	5月19日	第7回	5月26日	第8回	6月 2日	第9回			6月 9日	第10回	6月16日					第11回	6月23日	第12回	6月30日	第13回	7月 7日	第14回	
第1回	4月 7日	第2回	4月14日	第3回	4月21日	第4回																																					
	4月28日	第5回	5月12日																																								
第6回	5月19日	第7回	5月26日	第8回	6月 2日	第9回																																					
	6月 9日	第10回	6月16日																																								
第11回	6月23日	第12回	6月30日	第13回	7月 7日	第14回																																					

	7月14日 第15回 7月28日 ○火曜日 第1回 4月8日 第2回 4月15日 第3回 4月22日 第4回 5月13日 第5回 5月20日 第6回 5月27日 第7回 6月3日 第8回 6月10日 第9回 6月17日 第10回 6月24日 第11回 7月1日 第12回 7月8日 第13回 7月15日 第14回 7月22日 第15回 7月29日
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010B1	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(薬学部)		
編集担当教員	黒田 直敬		
授業担当教員名(科目責任者)	黒田 直敬		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	黒田 直敬		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕5階リフレッシュルーム		
対象学生(クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	n-kuro@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	薬学部5F 薬品分析化学研究室		
担当教員TEL	095-819-2894		
担当教員オフィスアワー	月～金 17:00以降		
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法(学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	(テーマ1) 1回 自己紹介、シラバスの説明、テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス 3回 グループ内で調査報告と意見交換、調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換、プレゼンテーションの基礎 5回 グループ・プレゼンテーション、全体討論、レポートライティングの基礎 (テーマ2) 6回 導入とシナリオ提示、意見交換、課題の明確化と分担、ペアでプランニング 7回 グループ内で調査報告と意見交換、ペアでプランニング 8回 グループ内で調査報告と意見交換、ペアでプランニング 9回 グループ内で調査報告と意見交換、プレゼンテーションの基礎		

	10回 ペアでプレゼンテーション、全体討論 (テーマ3) 11回 導入とシナリオ提示、意見交換、課題の明確化と分担、ペアでプランニング 12回 グループ内で調査報告と意見交換、ペアでプランニング 13回 グループ内で調査報告と意見交換、ペアでプランニング 14回 ディベート・ディスカッション 15回 報告会
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010B2	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(薬学部)		
編集担当教員	尾野村 治		
授業担当教員名(科目責任者)	尾野村 治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	尾野村 治		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕3階セミナー室		
対象学生(クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法(学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク(立案・情報収集等)グループディスカッションプレゼンテーションレポート作成発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010B3	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(薬学部)		
編集担当教員	栗山 正巳		
授業担当教員名(科目責任者)	栗山 正巳		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	栗山 正巳		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[薬] 第2講義室		
対象学生(クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法(学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク(立案・情報収集等)グループディスカッションプレゼンテーションレポート作成発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010B4	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(薬学部)		
編集担当教員	淵上 剛志		
授業担当教員名(科目責任者)	淵上 剛志		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	淵上 剛志		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕5階研修室		
対象学生(クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法(学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
	(第一部) 1回 自己紹介、シラバスの説明、テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス 3回 グループ内で調査報告と意見交換、調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換、プレゼンテーションの基礎 5回 グループ・プレゼンテーション、全体討論、レポートライティングの基礎 (第二部) 6回 導入とシナリオ提示、意見交換、課題の明確化と分担、ペアでプランニング 7回 グループ内で調査報告と意見交換、ペアでプランニング 8回 グループ内で調査報告と意見交換、ペアでプランニング		

授業内容	<p>9回 グループ内で調査報告と意見交換、プレゼンテーションの基礎</p> <p>10回 ペアでプレゼンテーション、全体討論</p> <p>(第三部)</p> <p>11回 導入とシナリオ提示、意見交換、課題の明確化と分担、ペアでプランニング</p> <p>12回 グループ内で調査報告と意見交換、ペアでプランニング</p> <p>13回 グループ内で調査報告と意見交換、ペアでプランニング、ディベート・ディスカッションの基礎</p> <p>14回 ディベート・ディスカッション</p> <p>15回 合同発表会</p>
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010B5	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(薬学部)		
編集担当教員	畑山 範		
授業担当教員名(科目責任者)	畑山 範		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	畑山 範		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	薬学部 3階 第1セミナー室		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010B6	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(薬学部)		
編集担当教員	植田 弘師		
授業担当教員名(科目責任者)	植田 弘師		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植田 弘師		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕 4階セミナー室		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010B7	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(薬学部)		
編集担当教員	川上 茂		
授業担当教員名(科目責任者)	川上 茂		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	川上 茂		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕 5階研修室		
対象学生(クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法(学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
	<p>「長崎と医学・薬学の関わり」、「医薬品の開発・適正使用」、「薬害と対策」についてPBL方式で自ら学ぶ。</p> <p>(長崎と医学・薬学の関わり)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 自己紹介、シラバスの説明、テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス 3回 グループ内で調査報告と意見交換、調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換、プレゼンテーションの基礎 5回 グループ・プレゼンテーション、全体討論、レポートライティングの基礎 <p>(医薬品の開発、又は、医薬品の適正使用)</p>		

授業内容	6回 導入とシナリオ提示、意見交換、課題の明確化と分担、検索ヒントと留意点 7回 グループ内で調査報告と意見交換（SGD） 8回 グループ内で調査報告と意見交換、プレゼンテーションファイル作成 9回 グループ・プレゼンテーション、全体討論 （薬害と対策） 10回 導入とシナリオ提示、意見交換、課題の明確化と分担、検索ヒントと留意点 11回 グループ内で調査報告と意見交換、課題選定 12回 グループ内で調査報告と意見交換（SGD） 13回 グループ内で調査報告と意見交換、プレゼンテーションファイル作成 14回 グループ・プレゼンテーション、全体討論 15回 合同報告会
キーワード	医療、長崎、医薬品開発、医薬品適正使用、薬害
教科書・教材・参考書	参考書：出島の医学（長崎文献社）、知っておきたい薬害の知識（財団法人 日本公定書協会）
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な取り組み、グループへの貢献度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010B8	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(薬学部)		
編集担当教員	高橋 正克		
授業担当教員名(科目責任者)	高橋 正克		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高橋 正克		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[薬] 第1 講義室		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010B9	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(多文化社会学部)		
編集担当教員	連 清吉		
授業担当教員名(科目責任者)	連 清吉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	連 清吉		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[多] 演習室 (7)		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身に付けることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
	回	内容	
	1	<p>はじめに：オリエンテーション (第1課) 授業：①担当教員と受講生の自己紹介、②大学での学びの全体イメージを把握する 自習：①学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>	
	2	<p>問いを立てる 授業：①質問への回答、②大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習：①卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、②いろいろなことに疑</p>	

授業内容		問を持ちそれをメモする
	3	資料収集の基礎（第5課） 授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習：2自習-②の続き
	4	知のモラルとマナー（第3課） 授業：①オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習：①自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する
	5	問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課） 授業：①個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習：①テーマの絞り込みと②「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕【CF助言】
	6	本・論文を探す（第6・7課） 授業：①問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習：①絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課） 授業：①リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、②レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習：①実際に文献表を作ってみる
	8	リーディングと研究ノート作り（第8課） 授業：①文献表についてのディスカッション、②リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習：①文献表のブラッシュアップ、②主要文献の収集と図書館の活用実践、③文献の読解【CF助言】
	9	調査から研究へ（第10課） 授業：①問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まってくる過程を知る 自習：①文献の読解（続き）、②リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】
	10	グループ調査の設計（第2課） 授業：①自習-②に基づいて全員の前で提案を行う、②グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習：①班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】
	11	文献調査とフィールド調査 授業：①調査計画についてのディスカッション、②調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続） 自習：①文献調査を行い、手分けして読む、②予備的な調査を行う【CF助言】
	12	プレゼンテーション入門(1)（第11課） 授業：①予備調査の手応えを報告する、②プレゼンテーションの基本を知る 自習：①グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有②本調査を行う【CF助言】
	13	プレゼンテーション入門(2)（第12課） 授業：①文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、②共同研究発表の方針を話し合う 自習：①調査データのブラッシュアップをする、②共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】
	14	研究発表会 授業：①他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、②ディスカッションに参加する 自習：①グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	15	レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課） 授業：①プレゼンテーションについてのまとめ②連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する 自習：①レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】
	16	まとめ ①レポート作成【CF助言】 ②TP成果最終報告会

キーワード	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート
教科書・教材・参考書	漢字文献情報処理研究会（編）『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版（2013）。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布
成績評価の方法・基準等	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、○学期末レポート(25%)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010C0	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(多文化社会学部)		
編集担当教員	葉柳 和則		
授業担当教員名(科目責任者)	葉柳 和則		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	葉柳 和則		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[多] 演習室 (11)		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	hayanagi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	多文化社会学部教員室7 (総合教育研究棟12F)		
担当教員TEL	095-819-2932		
担当教員オフィスアワー	金曜日4校時		
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身に付けることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
	回	内容	
	1	<p>はじめに：オリエンテーション (第1課) 授業：①担当教員と受講生の自己紹介、②大学での学びの全体イメージを把握する 自習：①学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>	
	2	<p>問いを立てる 授業：①質問への回答、②大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習：①卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、②いろいろなことに疑</p>	

授業内容		問を持ちそれをメモする
	3	資料収集の基礎（第5課） 授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習：2自習-②の続き
	4	知のモラルとマナー（第3課） 授業：①オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習：①自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する
	5	問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課） 授業：①個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習：①テーマの絞り込みと②「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備【2h】【CF助言】
	6	本・論文を探す（第6・7課） 授業：①問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習：①絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課） 授業：①リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、②レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習：①実際に文献表を作ってみる
	8	リーディングと研究ノート作り（第8課） 授業：①文献表についてのディスカッション、②リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習：①文献表のブラッシュアップ、②主要文献の収集と図書館の活用実践、③文献の読解【CF助言】
	9	調査から研究へ（第10課） 授業：①問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まってくる過程を知る 自習：①文献の読解（続き）、②リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】
	10	グループ調査の設計（第2課） 授業：①自習-②に基づいて全員の前で提案を行う、②グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習：①班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】
	11	文献調査とフィールド調査 授業：①調査計画についてのディスカッション、②調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続） 自習：①文献調査を行い、手分けして読む、②予備的な調査を行う【CF助言】
	12	プレゼンテーション入門(1)（第11課） 授業：①予備調査の手応えを報告する、②プレゼンテーションの基本を知る 自習：①グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有②本調査を行う【CF助言】
	13	プレゼンテーション入門(2)（第12課） 授業：①文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、②共同研究発表の方針を話し合う 自習：①調査データのブラッシュアップをする、②共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】
	14	研究発表会 授業：①他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、②ディスカッションに参加する 自習：①グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	15	レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課） 授業：①プレゼンテーションについてのまとめ②連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する 自習：①レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】
	16	まとめ ①レポート作成【CF助言】 ②TP成果最終報告会

キーワード	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート
教科書・教材・参考書	漢字文献情報処理研究会（編）『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版（2013）。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布
成績評価の方法・基準等	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、○学期末レポート(25%)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010C1	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(多文化社会学部)		
編集担当教員	森川 裕二		
授業担当教員名(科目責任者)	森川 裕二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森川 裕二		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[多] 演習室 (1)		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身に付けることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
	回	内容	
	1	<p>はじめに：オリエンテーション (第1課) 授業：①担当教員と受講生の自己紹介、②大学での学びの全体イメージを把握する 自習：①学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>	
	2	<p>問いを立てる 授業：①質問への回答、②大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習：①卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、②いろいろなことに疑</p>	

授業内容		問を持ちそれをメモする
	3	資料収集の基礎（第5課） 授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習：2自習-②の続き
	4	知のモラルとマナー（第3課） 授業：①オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習：①自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する
	5	問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課） 授業：①個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習：①テーマの絞り込みと②「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕【CF助言】
	6	本・論文を探す（第6・7課） 授業：①問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習：①絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課） 授業：①リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、②レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習：①実際に文献表を作ってみる
	8	リーディングと研究ノート作り（第8課） 授業：①文献表についてのディスカッション、②リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習：①文献表のブラッシュアップ、②主要文献の収集と図書館の活用実践、③文献の読解【CF助言】
	9	調査から研究へ（第10課） 授業：①問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習：①文献の読解（続き）、②リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】
	10	グループ調査の設計（第2課） 授業：①自習-②に基づいて全員の前で提案を行う、②グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習：①班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】
	11	文献調査とフィールド調査 授業：①調査計画についてのディスカッション、②調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続） 自習：①文献調査を行い、手分けして読む、②予備的な調査を行う【CF助言】
	12	プレゼンテーション入門(1)（第11課） 授業：①予備調査の手応えを報告する、②プレゼンテーションの基本を知る 自習：①グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有②本調査を行う【CF助言】
	13	プレゼンテーション入門(2)（第12課） 授業：①文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、②共同研究発表の方針を話し合う 自習：①調査データのブラッシュアップをする、②共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】
	14	研究発表会 授業：①他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、②ディスカッションに参加する 自習：①グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	15	レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課） 授業：①プレゼンテーションについてのまとめ②連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する 自習：①レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】
	16	まとめ ①レポート作成【CF助言】 ②TP成果最終報告会

キーワード	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート
教科書・教材・参考書	漢字文献情報処理研究会（編）『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版（2013）。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布
成績評価の方法・基準等	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、○学期末レポート(25%)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010C2	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(多文化社会学部)		
編集担当教員	野上 建紀		
授業担当教員名(科目責任者)	野上 建紀		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	野上 建紀		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[多] 演習室 (4)		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身に付けることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
	回	内容	
	1	<p>はじめに：オリエンテーション (第1課) 授業：①担当教員と受講生の自己紹介、②大学での学びの全体イメージを把握する 自習：①学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>	
	2	<p>問いを立てる 授業：①質問への回答、②大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習：①卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、②いろいろなことに疑</p>	

授業内容		問を持ちそれをメモする
	3	資料収集の基礎（第5課） 授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習：2自習-②の続き
	4	知のモラルとマナー（第3課） 授業：①オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習：①自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する
	5	問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課） 授業：①個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習：①テーマの絞り込みと②「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕【CF助言】
	6	本・論文を探す（第6・7課） 授業：①問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習：①絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課） 授業：①リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、②レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習：①実際に文献表を作ってみる
	8	リーディングと研究ノート作り（第8課） 授業：①文献表についてのディスカッション、②リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習：①文献表のブラッシュアップ、②主要文献の収集と図書館の活用実践、③文献の読解【CF助言】
	9	調査から研究へ（第10課） 授業：①問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習：①文献の読解（続き）、②リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】
	10	グループ調査の設計（第2課） 授業：①自習-②に基づいて全員の前で提案を行う、②グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習：①班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】
	11	文献調査とフィールド調査 授業：①調査計画についてのディスカッション、②調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続） 自習：①文献調査を行い、手分けして読む、②予備的な調査を行う【CF助言】
	12	プレゼンテーション入門(1)（第11課） 授業：①予備調査の手応えを報告する、②プレゼンテーションの基本を知る 自習：①グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有②本調査を行う【CF助言】
	13	プレゼンテーション入門(2)（第12課） 授業：①文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、②共同研究発表の方針を話し合う 自習：①調査データのブラッシュアップをする、②共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】
	14	研究発表会 授業：①他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、②ディスカッションに参加する 自習：①グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	15	レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課） 授業：①プレゼンテーションについてのまとめ②連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する 自習：①レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】
	16	まとめ ①レポート作成【CF助言】 ②TP成果最終報告会

キーワード	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート
教科書・教材・参考書	漢字文献情報処理研究会（編）『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版（2013）。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布
成績評価の方法・基準等	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、○学期末レポート(25%)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010C3	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(多文化社会学部)		
編集担当教員	正本 忍		
授業担当教員名(科目責任者)	正本 忍		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	正本 忍		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[多] 演習室 (10)		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身に付けることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
	回	内容	
	1	<p>はじめに：オリエンテーション (第1課) 授業：①担当教員と受講生の自己紹介、②大学での学びの全体イメージを把握する 自習：①学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>	
	2	<p>問いを立てる 授業：①質問への回答、②大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習：①卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、②いろいろなことに疑</p>	

授業内容		問を持ちそれをメモする
	3	資料収集の基礎（第5課） 授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習：2自習-②の続き
	4	知のモラルとマナー（第3課） 授業：①オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習：①自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する
	5	問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課） 授業：①個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習：①テーマの絞り込みと②「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕【CF助言】
	6	本・論文を探す（第6・7課） 授業：①問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習：①絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課） 授業：①リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、②レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習：①実際に文献表を作ってみる
	8	リーディングと研究ノート作り（第8課） 授業：①文献表についてのディスカッション、②リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習：①文献表のブラッシュアップ、②主要文献の収集と図書館の活用実践、③文献の読解【CF助言】
	9	調査から研究へ（第10課） 授業：①問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習：①文献の読解（続き）、②リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】
	10	グループ調査の設計（第2課） 授業：①自習-②に基づいて全員の前で提案を行う、②グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習：①班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】
	11	文献調査とフィールド調査 授業：①調査計画についてのディスカッション、②調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続） 自習：①文献調査を行い、手分けして読む、②予備的な調査を行う【CF助言】
	12	プレゼンテーション入門(1)（第11課） 授業：①予備調査の手応えを報告する、②プレゼンテーションの基本を知る 自習：①グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有②本調査を行う【CF助言】
	13	プレゼンテーション入門(2)（第12課） 授業：①文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、②共同研究発表の方針を話し合う 自習：①調査データのブラッシュアップをする、②共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】
	14	研究発表会 授業：①他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、②ディスカッションに参加する 自習：①グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	15	レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課） 授業：①プレゼンテーションについてのまとめ②連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する 自習：①レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】
	16	まとめ ①レポート作成【CF助言】 ②TP成果最終報告会

キーワード	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート
教科書・教材・参考書	漢字文献情報処理研究会（編）『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版（2013）。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布
成績評価の方法・基準等	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、○学期末レポート(25%)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010C4	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(多文化社会学部)		
編集担当教員	池田 幸恵		
授業担当教員名(科目責任者)	池田 幸恵		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	池田 幸恵		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[多] 演習室 (10)		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身に付けることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
	回	内容	
	1	<p>はじめに：オリエンテーション (第1課) 授業：①担当教員と受講生の自己紹介、②大学での学びの全体イメージを把握する 自習：①学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>	
	2	<p>問いを立てる 授業：①質問への回答、②大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習：①卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、②いろいろなことに疑</p>	

授業内容		問を持ちそれをメモする
	3	資料収集の基礎（第5課） 授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習：2自習-②の続き
	4	知のモラルとマナー（第3課） 授業：①オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習：①自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する
	5	問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課） 授業：①個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習：①テーマの絞り込みと②「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕【CF助言】
	6	本・論文を探す（第6・7課） 授業：①問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習：①絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課） 授業：①リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、②レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習：①実際に文献表を作ってみる
	8	リーディングと研究ノート作り（第8課） 授業：①文献表についてのディスカッション、②リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習：①文献表のブラッシュアップ、②主要文献の収集と図書館の活用実践、③文献の読解【CF助言】
	9	調査から研究へ（第10課） 授業：①問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習：①文献の読解（続き）、②リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】
	10	グループ調査の設計（第2課） 授業：①自習-②に基づいて全員の前で提案を行う、②グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習：①班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】
	11	文献調査とフィールド調査 授業：①調査計画についてのディスカッション、②調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続） 自習：①文献調査を行い、手分けして読む、②予備的な調査を行う【CF助言】
	12	プレゼンテーション入門(1)（第11課） 授業：①予備調査の手応えを報告する、②プレゼンテーションの基本を知る 自習：①グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有②本調査を行う【CF助言】
	13	プレゼンテーション入門(2)（第12課） 授業：①文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、②共同研究発表の方針を話し合う 自習：①調査データのブラッシュアップをする、②共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】
	14	研究発表会 授業：①他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、②ディスカッションに参加する 自習：①グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	15	レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課） 授業：①プレゼンテーションについてのまとめ②連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する 自習：①レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】
	16	まとめ ①レポート作成【CF助言】 ②TP成果最終報告会

キーワード	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート
教科書・教材・参考書	漢字文献情報処理研究会（編）『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版（2013）。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布
成績評価の方法・基準等	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、○学期末レポート(25%)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010C5	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(多文化社会学部)		
編集担当教員	賽漢卓娜		
授業担当教員名(科目責任者)	賽漢卓娜		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	賽漢卓娜		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[多] 演習室 (3)		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身に付けることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
	回	内容	
	1	<p>はじめに：オリエンテーション (第1課) 授業：①担当教員と受講生の自己紹介、②大学での学びの全体イメージを把握する 自習：①学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>	
	2	<p>問いを立てる 授業：①質問への回答、②大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習：①卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、②いろいろなことに疑</p>	

授業内容		問を持ちそれをメモする
	3	資料収集の基礎（第5課） 授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習：2自習-②の続き
	4	知のモラルとマナー（第3課） 授業：①オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習：①自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する
	5	問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課） 授業：①個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習：①テーマの絞り込みと②「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕【CF助言】
	6	本・論文を探す（第6・7課） 授業：①問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習：①絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課） 授業：①リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、②レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習：①実際に文献表を作ってみる
	8	リーディングと研究ノート作り（第8課） 授業：①文献表についてのディスカッション、②リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習：①文献表のブラッシュアップ、②主要文献の収集と図書館の活用実践、③文献の読解【CF助言】
	9	調査から研究へ（第10課） 授業：①問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まってくる過程を知る 自習：①文献の読解（続き）、②リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】
	10	グループ調査の設計（第2課） 授業：①自習-②に基づいて全員の前で提案を行う、②グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習：①班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】
	11	文献調査とフィールド調査 授業：①調査計画についてのディスカッション、②調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続） 自習：①文献調査を行い、手分けして読む、②予備的な調査を行う【CF助言】
	12	プレゼンテーション入門(1)（第11課） 授業：①予備調査の手応えを報告する、②プレゼンテーションの基本を知る 自習：①グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有②本調査を行う【CF助言】
	13	プレゼンテーション入門(2)（第12課） 授業：①文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、②共同研究発表の方針を話し合う 自習：①調査データのブラッシュアップをする、②共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】
	14	研究発表会 授業：①他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、②ディスカッションに参加する 自習：①グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	15	レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課） 授業：①プレゼンテーションについてのまとめ②連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する 自習：①レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】
	16	まとめ ①レポート作成【CF助言】 ②TP成果最終報告会

キーワード	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート
教科書・教材・参考書	漢字文献情報処理研究会（編）『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版（2013）。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布
成績評価の方法・基準等	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、○学期末レポート(25%)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010C6	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(多文化社会学部)		
編集担当教員	滝澤 克彦		
授業担当教員名(科目責任者)	滝澤 克彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	滝澤 克彦		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[多] 演習室 (5)		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身に付けることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
	回	内容	
	1	<p>はじめに：オリエンテーション (第1課) 授業：①担当教員と受講生の自己紹介、②大学での学びの全体イメージを把握する 自習：①学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>	
	2	<p>問いを立てる 授業：①質問への回答、②大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習：①卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、②いろいろなことに疑</p>	

授業内容		問を持ちそれをメモする
	3	資料収集の基礎（第5課） 授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習：2自習-②の続き
	4	知のモラルとマナー（第3課） 授業：①オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習：①自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する
	5	問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課） 授業：①個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習：①テーマの絞り込みと②「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕【CF助言】
	6	本・論文を探す（第6・7課） 授業：①問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習：①絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課） 授業：①リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、②レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習：①実際に文献表を作ってみる
	8	リーディングと研究ノート作り（第8課） 授業：①文献表についてのディスカッション、②リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習：①文献表のブラッシュアップ、②主要文献の収集と図書館の活用実践、③文献の読解【CF助言】
	9	調査から研究へ（第10課） 授業：①問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習：①文献の読解（続き）、②リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】
	10	グループ調査の設計（第2課） 授業：①自習-②に基づいて全員の前で提案を行う、②グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習：①班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】
	11	文献調査とフィールド調査 授業：①調査計画についてのディスカッション、②調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続） 自習：①文献調査を行い、手分けして読む、②予備的な調査を行う【CF助言】
	12	プレゼンテーション入門(1)（第11課） 授業：①予備調査の手応えを報告する、②プレゼンテーションの基本を知る 自習：①グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有②本調査を行う【CF助言】
	13	プレゼンテーション入門(2)（第12課） 授業：①文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、②共同研究発表の方針を話し合う 自習：①調査データのブラッシュアップをする、②共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】
	14	研究発表会 授業：①他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、②ディスカッションに参加する 自習：①グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	15	レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課） 授業：①プレゼンテーションについてのまとめ②連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する 自習：①レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】
	16	まとめ ①レポート作成【CF助言】 ②TP成果最終報告会

キーワード	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート
教科書・教材・参考書	漢字文献情報処理研究会（編）『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版（2013）。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布
成績評価の方法・基準等	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、○学期末レポート(25%)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010C7	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(多文化社会学部)		
編集担当教員	見原 礼子		
授業担当教員名(科目責任者)	見原 礼子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	見原 礼子		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[多] 演習室 (1 2)		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身に付けることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
	回	内容	
	1	<p>はじめに：オリエンテーション (第1課) 授業：①担当教員と受講生の自己紹介、②大学での学びの全体イメージを把握する 自習：①学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>	
	2	<p>問いを立てる 授業：①質問への回答、②大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習：①卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、②いろいろなことに疑</p>	

授業内容		問を持ちそれをメモする
	3	資料収集の基礎（第5課） 授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習：2自習-②の続き
	4	知のモラルとマナー（第3課） 授業：①オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習：①自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する
	5	問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課） 授業：①個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習：①テーマの絞り込みと②「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備【2h】【CF助言】
	6	本・論文を探す（第6・7課） 授業：①問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習：①絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課） 授業：①リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、②レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習：①実際に文献表を作ってみる
	8	リーディングと研究ノート作り（第8課） 授業：①文献表についてのディスカッション、②リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習：①文献表のブラッシュアップ、②主要文献の収集と図書館の活用実践、③文献の読解【CF助言】
	9	調査から研究へ（第10課） 授業：①問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まってくる過程を知る 自習：①文献の読解（続き）、②リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】
	10	グループ調査の設計（第2課） 授業：①自習-②に基づいて全員の前で提案を行う、②グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習：①班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】
	11	文献調査とフィールド調査 授業：①調査計画についてのディスカッション、②調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続） 自習：①文献調査を行い、手分けして読む、②予備的な調査を行う【CF助言】
	12	プレゼンテーション入門(1)（第11課） 授業：①予備調査の手応えを報告する、②プレゼンテーションの基本を知る 自習：①グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有②本調査を行う【CF助言】
	13	プレゼンテーション入門(2)（第12課） 授業：①文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、②共同研究発表の方針を話し合う 自習：①調査データのブラッシュアップをする、②共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】
	14	研究発表会 授業：①他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、②ディスカッションに参加する 自習：①グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	15	レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課） 授業：①プレゼンテーションについてのまとめ②連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する 自習：①レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】
	16	まとめ ①レポート作成【CF助言】 ②TP成果最終報告会

キーワード	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート
教科書・教材・参考書	漢字文献情報処理研究会（編）『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版（2013）。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布
成績評価の方法・基準等	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、○学期末レポート(25%)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010C8	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(多文化社会学部)		
編集担当教員	小松 悟		
授業担当教員名(科目責任者)	小松 悟		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小松 悟		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[多] 演習室 (4)		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身に付けることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
	回	内容	
	1	<p>はじめに：オリエンテーション (第1課) 授業：①担当教員と受講生の自己紹介、②大学での学びの全体イメージを把握する 自習：①学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>	
	2	<p>問いを立てる 授業：①質問への回答、②大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習：①卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、②いろいろなことに疑</p>	

授業内容		問を持ちそれをメモする
	3	資料収集の基礎（第5課） 授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習：2自習-②の続き
	4	知のモラルとマナー（第3課） 授業：①オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習：①自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する
	5	問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課） 授業：①個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習：①テーマの絞り込みと②「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕【CF助言】
	6	本・論文を探す（第6・7課） 授業：①問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習：①絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	7	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課） 授業：①リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、②レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習：①実際に文献表を作ってみる
	8	リーディングと研究ノート作り（第8課） 授業：①文献表についてのディスカッション、②リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習：①文献表のブラッシュアップ、②主要文献の収集と図書館の活用実践、③文献の読解【CF助言】
	9	調査から研究へ（第10課） 授業：①問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習：①文献の読解（続き）、②リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】
	10	グループ調査の設計（第2課） 授業：①自習-②に基づいて全員の前で提案を行う、②グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習：①班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】
	11	文献調査とフィールド調査 授業：①調査計画についてのディスカッション、②調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続） 自習：①文献調査を行い、手分けして読む、②予備的な調査を行う【CF助言】
	12	プレゼンテーション入門(1)（第11課） 授業：①予備調査の手応えを報告する、②プレゼンテーションの基本を知る 自習：①グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有②本調査を行う【CF助言】
	13	プレゼンテーション入門(2)（第12課） 授業：①文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、②共同研究発表の方針を話し合う 自習：①調査データのブラッシュアップをする、②共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】
	14	研究発表会 授業：①他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、②ディスカッションに参加する 自習：①グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	15	レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課） 授業：①プレゼンテーションについてのまとめ②連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する 自習：①レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】
	16	まとめ ①レポート作成【CF助言】 ②TP成果最終報告会

キーワード	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート
教科書・教材・参考書	漢字文献情報処理研究会（編）『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版（2013）。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布
成績評価の方法・基準等	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、○学期末レポート(25%)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010C9	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部保健学科)		
編集担当教員	浦田 秀子		
授業担当教員名(科目責任者)	浦田 秀子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	浦田 秀子		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]103f1-		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会 (7/7または7/15予定) 等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010D0	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部保健学科)		
編集担当教員	大西 真由美		
授業担当教員名(科目責任者)	大西 真由美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大西 真由美		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]201f1-		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会 (7/7または7/15予定) 等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010D1	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部保健学科)		
編集担当教員	本田 純久		
授業担当教員名(科目責任者)	本田 純久		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	本田 純久		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]202f1-		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会 (7/7または7/15予定) 等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010D2	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部保健学科)		
編集担当教員	新川 哲子		
授業担当教員名(科目責任者)	新川 哲子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	新川 哲子		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]10471-		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会 (7/7または7/15予定) 等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010D3	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部保健学科)		
編集担当教員	橋爪 可織		
授業担当教員名(科目責任者)	橋爪 可織		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	橋爪 可織		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]105f1-		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会 (7/7または7/15予定) 等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010D4	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部保健学科)		
編集担当教員	山本 直子		
授業担当教員名(科目責任者)	山本 直子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山本 直子		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]106f1-		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会 (7/7または7/15予定) 等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010D5	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部保健学科)		
編集担当教員	井口 茂		
授業担当教員名(科目責任者)	井口 茂		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井口 茂		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]203f1-		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会 (7/7または7/15予定) 等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010D6	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部保健学科)		
編集担当教員	中野 治郎		
授業担当教員名(科目責任者)	中野 治郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中野 治郎		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]107f1-		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会 (7/7または7/15予定) 等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010D7	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部保健学科)		
編集担当教員	東 登志夫		
授業担当教員名(科目責任者)	東 登志夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	東 登志夫		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]201f1-		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会（7/7または7/15予定）等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010D8	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部保健学科)		
編集担当教員	村田 潤		
授業担当教員名(科目責任者)	村田 潤		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村田 潤		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]202f1-		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会 (7/7または7/15予定) 等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010D9	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部医学科)		
編集担当教員	七島 篤志		
授業担当教員名(科目責任者)	七島 篤志		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	七島 篤志		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010F1	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部医学科)		
編集担当教員	松尾 孝之		
授業担当教員名(科目責任者)	松尾 孝之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松尾 孝之		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010F2	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部医学科)		
編集担当教員	北條 美能留		
授業担当教員名(科目責任者)	北條 美能留		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	北條 美能留		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010F3	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部医学科)		
編集担当教員	金子 賢一		
授業担当教員名(科目責任者)	金子 賢一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	金子 賢一		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	kkaneko@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室		
担当教員TEL	095-819-7349		
担当教員オフィスアワー	19:00-20:00		
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010F4	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部医学科)		
編集担当教員	林 秀行		
授業担当教員名(科目責任者)	林 秀行		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 秀行		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010F5	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部医学科)		
編集担当教員	築城 英子		
授業担当教員名(科目責任者)	築城 英子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	築城 英子		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010F6	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部医学科)		
編集担当教員	久保 嘉直		
授業担当教員名(科目責任者)	久保 嘉直		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	久保 嘉直		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010F7	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部医学科)		
編集担当教員	松坂 雄亮		
授業担当教員名(科目責任者)	松坂 雄亮		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松坂 雄亮,井生 久美子		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010F9	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部医学科)		
編集担当教員	林 洋子		
授業担当教員名(科目責任者)	林 洋子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 洋子		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 ゼミナール科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010G1	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部医学科)		
編集担当教員	岡田 雅彦		
授業担当教員名(科目責任者)	岡田 雅彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡田 雅彦		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 ゼミナール科目」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010G2	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール(医学部医学科)		
編集担当教員	中村 洋一		
授業担当教員名(科目責任者)	中村 洋一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中村 洋一		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生 (クラス等)	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。 		
授業方法 (学習指導法)	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心にグループワーク (立案・情報収集等) グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.